『タウンニュース／小田原版』平成２９年８月２６日（土）号

寄稿

「公共施設」を捉え直す時

小田原市長　加藤憲一

地域の未来を考えるとき、一斉に老朽化の進む公共施設をどうするかということは、最大の難題のひとつ。市内の公共施設を現在の数・面積のまま維持・更新する場合、今後30年で一千億円を超える財源不足が見込まれるため、可能な限りの長寿命化、思い切った総量縮減や公民連携などが不可欠となります。

総量縮減と言うと、身近な施設の廃止、行政サービスの低下等が心配になりますが、取り組み方によっては公共施設を新たな視点で捉え直し、より良い形や機能へと生まれ変わらせる絶好の機会になると考えます。

例えば、公共施設の中でも４割近くを占める「学校」。市立の幼稚園・小学校・中学校は42もあり、特に小学校は地域コミュニティの中心となる存在。子どもたちの学びと育ちの場という基本機能は保ちながら、幼・小や小・中の一体化、公共機能の取り込み、空き教室等の地域活動スペースとしての活用など、様々な可能性を組み合わせることで、地域の中で既存公共施設が担っていた機能を大きく損なうことなく、学校と地域の連携を深めたり、地域コミュニティの強化に繋げられないか？長寿命化の手法として、地域産木材を活用した空間整備などを地元の建設会社や保護者・地域住民らが一緒にやれないか？そのような、総量を減らしながらもプラスの効果を生み、かつ地域が一体となれる学校づくりはできないかと、他都市の先進事例や識者の意見に学びながら、想いを巡らせています。

この大事なテーマは、地域の皆さんが将来への夢や希望を語りながら共に考え、実現へ力を合わせることが、何より重要。秋からは川東地区でのワークショップも始まります。「公共施設」という難題を、地域づくりへの大きなチャンスに変えて行きたいものです。

かとうけんいち

1964年小田原生まれ。小田原高校・京都大学法学部卒。2008年5月小田原市長に初当選、現在3期目を務める。妻と子供2人の4人家族。

私が変わる・小田原が変わる

おだわらを拓く力

（加藤けんいち後援会）

小田原市栄町2-13-1-2F

TEL.0465-21-5260

（月・水・金 10:00～17:00）

http://www.katoken.info